

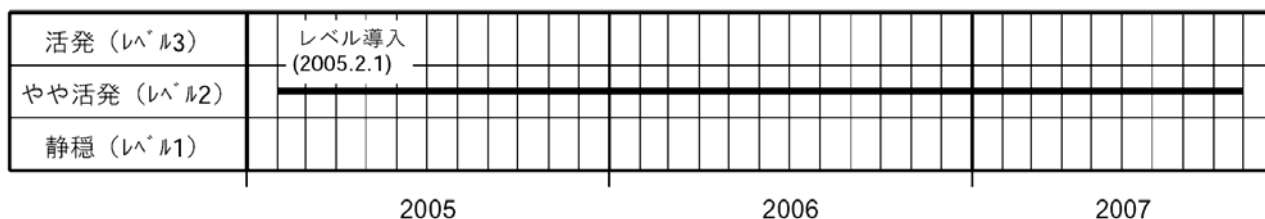
口永良部島

火山活動評価：やや活発な状況(レベル2)

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しました。

2005年2月1日の導入以降、レベル2が継続しています。

火山活動度レベルの推移



概況

・噴煙活動

監視カメラでは新岳・古岳の噴気は観測されませんでした。

・地震、微動活動(図2、図3)

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は146回(8月:141回)でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。火山性微動は、2006年10月からやや多い状態が続いており、月回数は7回(8月:8回)でした。

・地殻変動(図1、図4)

GPS連続観測では、2006年9月以降見られていた新岳の膨張を示す傾向は停滞しています。

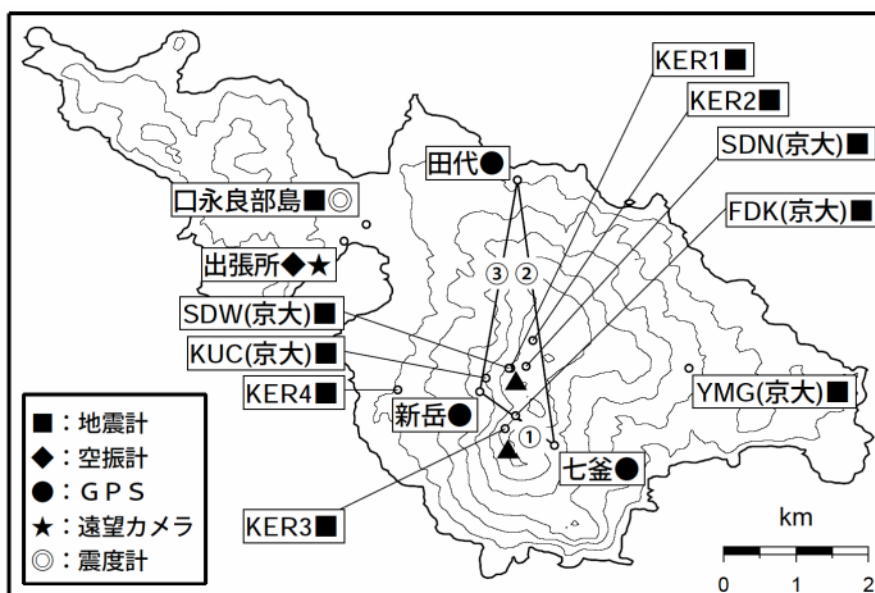


図1 口永良部島 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号:平17総使、第503号)。

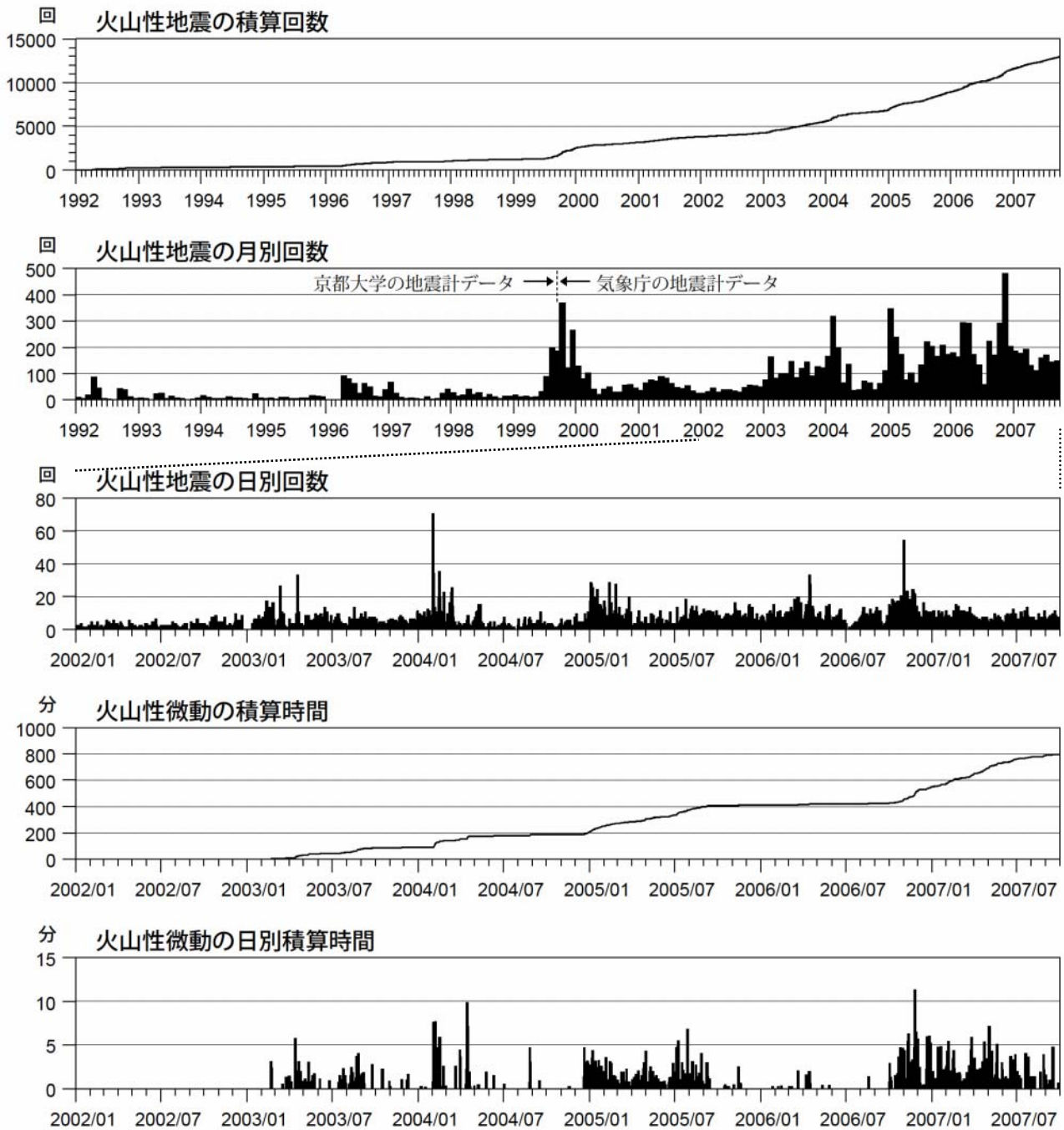


図2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日～2007年9月30日)
 ・2005年1月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
 ・火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

*1992年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日間は京都大学のデータを使用しました。

*2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

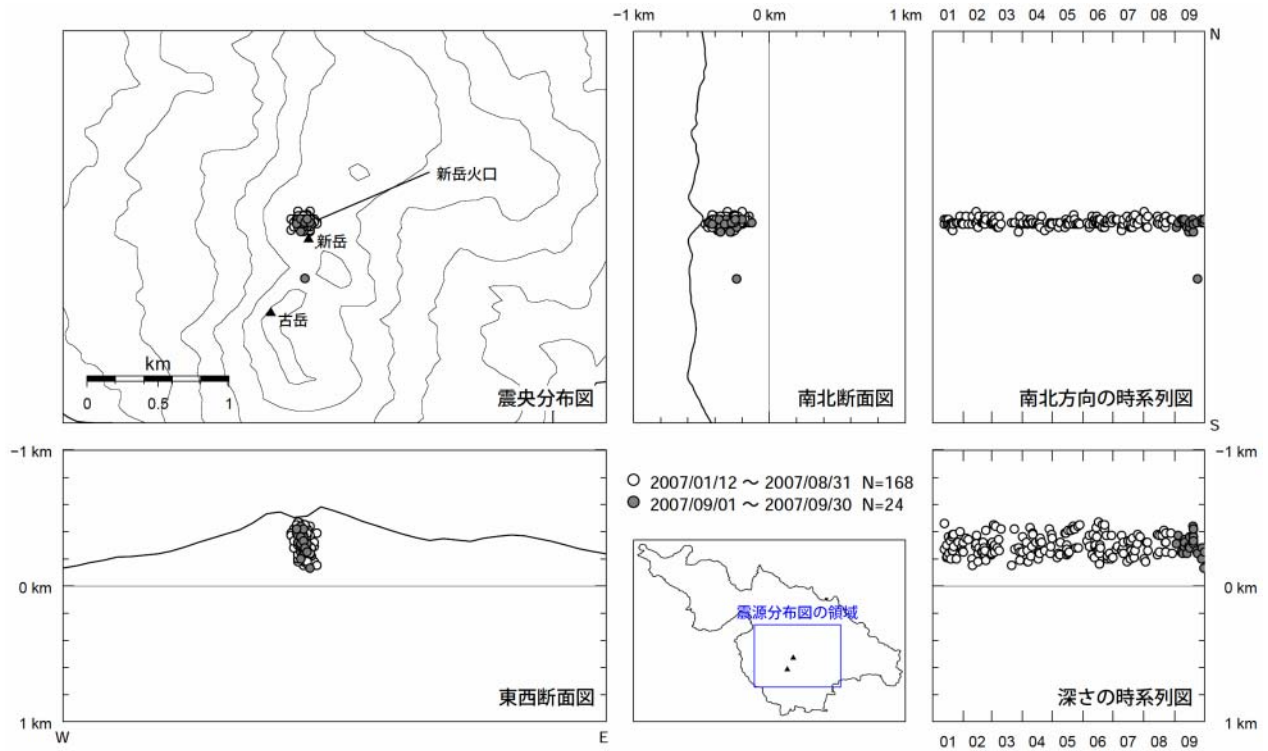


図3 口永良部島 震源分布図(2007年1月12日～9月30日)
 火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。
 * 1月12日から京都大学のデータを用いて震源を求めています。

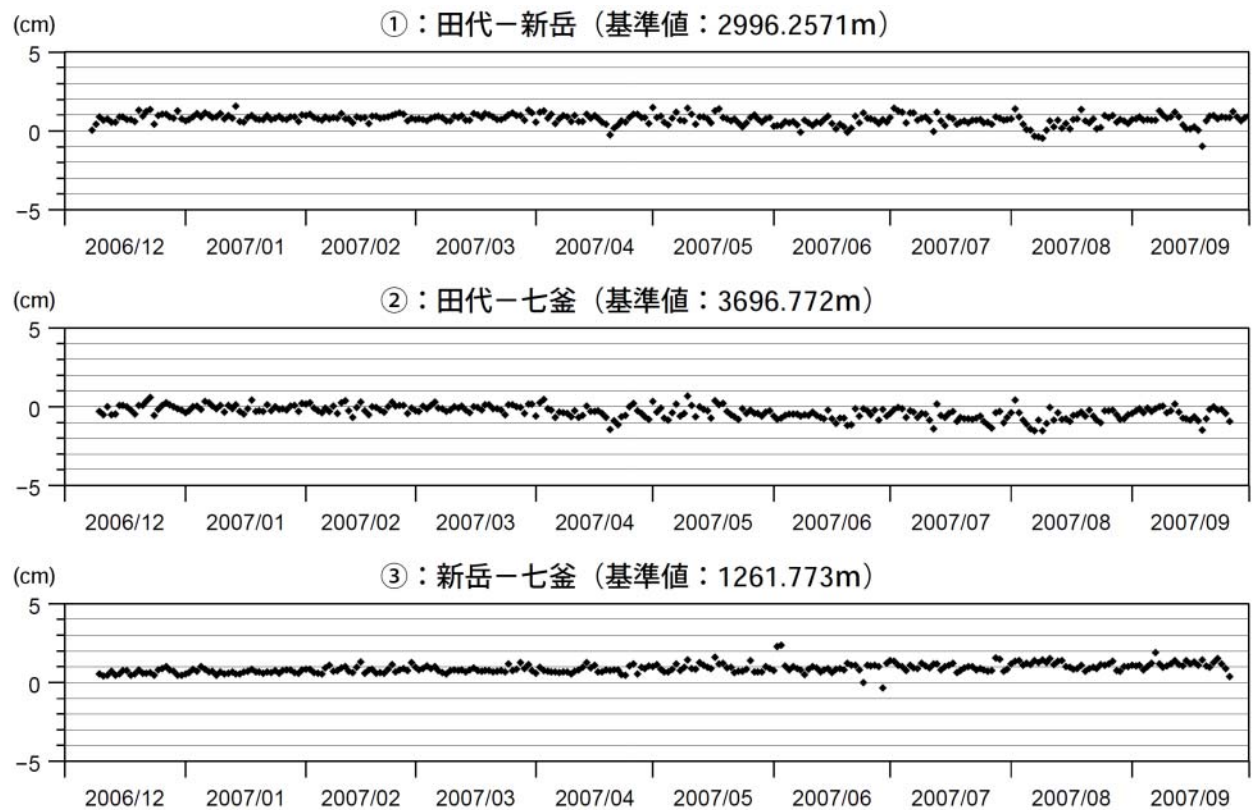


図4 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化(2006年12月8日～2007年9月30日)
 火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。
 この基線は図1の ~ に対応しています。